

素顔のヨーロッパ第1部 欧州連合（EU）をどう見るか

2008年10月5日 高田太久吉

1. EUの歴史

シューマン宣言(1950年5月 当時のフランス外相 Robert Schuman が提案。草案を起草したのは Jean Monnet)

「統合されたヨーロッパは、一挙には、また、単一の全体計画にしたがっては構築されない。そうではなく、まずは連帯的な行為を生み出す具体的な事実を通じて形成される」

(目的) フランス・ドイツ・ベルギー・イタリア・ルクセンブルグ・オランダの5カ国が条約を締結し、石炭と鉄鋼産業の共同管理を行う」(石炭・鉄鋼共同体)

フランスの鉄鋼業とドイツの石炭を共同管理することで経済共同体にむけて踏み出す鉄鋼と石炭の共同管理によって加盟国間の戦争を防止する

以下、単一市場の成立までの過程は、別紙参照。

EU形成の出発点となったシューマン宣言の背景には、フランスとドイツの抗争を抑止し、ヨーロッパに恒久的な平和を築くという理念があった。

この理念は、のちのユーロ発行問題(次回のテーマ)にまでつながっている。

その意味で、EUプロジェクトを推進する車軸は、一貫して、フランスとドイツの協調関係である。具体的には、政治・外交面でフランス、経済面でドイツが中心となり、加盟国に共通の利益を提示しながら、個別問題についての妥協と協調を積み上げることで、共同体の内実を作ってゆくという方法。

2. EUはどのような社会を目指しているのか

政体としては、超国家的な連邦国家・主権国家ではなく、単なる国際機関でもない「独特のもの」をめざす

共通政策はあるが、それはすべての問題を包括するわけではない

課税権、警察、防衛は基本的に加盟国に属する

市民の国籍もそれぞれの国に属する

EU法規としての「指令」(directive)は、それぞれの国の実施法にもとづき、加盟国政府によって実施される。

新しい政体としてのEUがどのようなものであるかは、あらかじめ合意されていない。その意味で、歴史上類を見ない、人類のあたらしい実験である。

「EUは、これまでに例のない、独自の発展を遂げており、国際法の新たなあり方を生み出していきます。それは、統合された政策を通じて、伝統的な国家主権概念の重要な部分、とくに経済に関する部分を共同で行使しつつ、他の分野では国家主権を維持するという権限の分有に基づく制度である。」

ベルンハルド・ツェプター駐日EU代表部大使

「EUは、国家ではなく、他に類を見ない超国家的統治体である。それは、複数の国家が共通の機関を設立して主権の一部をプールし、共同行使する統治の枠組みである。」庄司克宏『欧州連合』岩波新書

文化・言語における多様性の尊重

「我々にとって、文化的な違いを受け入れることは、大変自然なことです。実際のところ、欧州の人々は、統一された文化、あるいはたった一つの言語や食文化をもつ「るつぼ」にはなりたくないと考えています。われわれは、欧州の文化的多様性が保持されることを望んでいます。欧州統合は、一つの屋根の下で、可能な限り各国の特性を反映したものであるべきなのです。「多様性における統一」というのが我々の使命を表すモットーですが、我々はこの多様性における統一こそが国際関係の在り方を生み出していくのだと確信しています」ベルンハルド・ツェプター駐日EU代表部大使

個々の加盟国の公用語は、あらゆるEUの集会の実用後として受け入れられるというのは、EUの規則 {1958年} の第一号に掲げられている。現在は、20の言語が公用語として認められている。(別表参照) EUは、1日に100万ユーロを超える経費を、文書の翻訳に出資し、4000人のフルタイムの通訳者・翻訳者が働いている。欧州議会では、どの議員の発言も、一言のこらず、19の言語に通訳される。

EUは社会的市場経済をめざす

EU憲法 (欧州憲法条約) 2004年10月調印

第1部第3条「欧州連合の目標」として掲げられた社会的市場経済

「完全雇用および社会的進歩を目指す高度の競争力を有する社会的市場経済」

社会的市場経済は第二次大戦後西ドイツが目指した経済システム

社会的市場経済を提唱したのはフライブルク学派と呼ばれる経済学者グループ

ヴァルター・オイケン『経済政策原理』

社会的市場経済の理念

社会的に形成され、意識的にコントロールされた市場経済をめざす

市場メカニズムは多くの社会問題を解決できないという認識が基礎にある

ただし、統制経済や政府による過度に干渉的な市場には反対

自由 安全 社会的バランスの維持

オイケン「効率的であると同時に人間にふさわしい」経済システム

マクロ経済政策よりも、社会保障制度の整備を重視

大きな政府（ただし、当初の社会的市場経済はケインズ政策を拒否した）

経済のグローバル化のなかでドイツ経済の矛盾が顕在化

財政問題の改善と社会保障制度の維持は両立するか

労使協調と社会的責任は、ドイツ企業の国際競争力に負担となるか

ドイツの経済発展のために教育制度をどのように改革すべきか

ドイツは、国際政治のなかでどのような役割を担当すべきか

3. EUと日本の関係

EUと日本の経済的な関係（別表参照）

中国・ロシアを重視するEUとアメリカ・中国を重視する日本

EUの経験から何を学ぶか

政治の責任「政治は可能性を追求する技術である」

可能性は、粘り強い交渉を経た妥協の積み重ねから生まれる

アジア地域において、多様性のなかの統一をどのように目指すのか

参考文献

平島健司『EUは国家を超えられるか』岩波書店

庄司克宏『欧州連合 統治の論理とゆくえ』岩波新書

トム・リード（金子宣子訳）『ヨーロッパ合衆国の正体』新潮社

素顔のヨーロッパ 第一部 (2008年10月10日)
ドルとユーロ・・・国際基軸通貨は交代するか

高田太久吉

(解題) サブプライム問題を契機とするアメリカの金融危機が1930年代以来の国際金融危機として拡大し、世界恐慌の発生を懸念する声があがる状況になっている。今回の金融危機は、過去20年以上にわたって国際金融市場に君臨してきたアメリカ・ウォール街の大手投資銀行の没落(投資銀行モデルの終焉)を引き起こしただけではなく、今後長期にわたるアメリカ経済の停滞、アメリカの国際政治、国際経済、国際金融におけるヘゲモニーの衰弱、世界の政治的・経済的パワーストラクチャーの構造変化を引き起こすことが予想されている。もし、このような構造変化が現実に進行すれば、アメリカの政治的・経済的ヘゲモニーに支えられてきた国際基軸通貨ドルも現在の地位と役割を維持し続けることは難しくなるであろう。今後、世界の政治・経済の構造がEU、東アジア、ラテンアメリカを含めて多極化(無極化という見方もあるが)するとすれば、その過程で国際通貨制度にはどのような変化が予想されるのか。ユーロはドルに代わる基軸通貨になるのか、それともドル、ユーロ、人民元を含む複数基軸通貨制度に移行するのか。

1. ドルはなぜ基軸通貨・世界貨幣であるのか

基軸通貨の4つの役割

国際決済手段

介入通貨

媒介通貨

準備通貨

国際取引をドルで決済するとはどのようなことか

国際通貨ドルとはドル建ての銀行預金である

銀行預金の通貨機能を支える為替制度と手形交換制度

デ・ファクト・スタンダードとしてのドル決済制度

基軸通貨としてのドルをささえる条件

アメリカの大きな経済力

アメリカの巨大な国内金融市場

世界の貿易・金融取引に占めるアメリカの大きなシェア

ニューヨーク金融市場の役割

2. ユーロとはどのような通貨なのか

ユーロ成立の政治・経済的背景

EUにおけるフランスとドイツの関係

EUの経済的中心はドイツ

ユーロは事実上マルクが名称変更したもの

東西ドイツの統一をめぐる政治経済学

域内通貨としてのユーロ

「ゲームのルール」としての固定レート制

固定レート制を支える財政・金融政策の制約

「経済安定・成長協定」

長期的な財政均衡 上限3%の財政赤字

ユーロの中央銀行としてのヨーロッパ中央銀行（フランクフルト）とは？

国際金融市場におけるユーロの地位

イギリス、スイスはユーロを導入するのか？？

3. 国際基軸通貨の交代とはどのようなことか

1940年代ポンドからドルへの交代（ブレトンウッズ体制の成立）

第二次世界大戦の結果、以下の状況が現出した

- (1)世界各国が貿易・金融取引のためにドルを必要とする状況
- (2)アメリカの強力な政治的・経済的覇権がドルの信認をささえる
- (3)金・ドル交換の保証（ドルの価値を金によって保証する）
- (4)固定レート制によって国際的なゲームのルールを明確化

IMF体制の崩壊（1970年代前半期）

上記の(3),(4)が維持できなくなった。

金・ドル交換の停止・変動相場制（フロート制）への移行

ドルの価値は、購買力、他の通貨との交換比率、以外に尺度がなくなる
基軸通貨国アメリカがゲームのルールを無視できる状態になる

それにも関わらず、今日までドル基軸通貨体制が維持されたのはなぜか？

グローバル化した世界経済は、なんらかの基軸通貨なしにはやってゆけない
上記(1),(2)が継続し、ドルは不完全な国際基軸通貨の役割を担当しつづけた
アメリカの「ドル垂れ流し」政策を世界が容認せざるをえない状況
アメリカの膨大な国際収支赤字、財政赤字の慢性化
その代償は、為替レートの変動、国際金融市場の不安定化

4. 国際基軸通貨は交代するのか

現在ユーロは、上記の(1),(2),(3),(4)のいずれの条件も満たしていない。

近い将来、それらの条件が満たされる可能性があるか（不明）

可能性が大きいのは、当分ドルがますます不完全な基軸通貨として機能し続け、
ユーロと人民元が、地域通貨と部分的国際決済手段として機能する構造
これは、非常に不安定で、管理することが難しい国際通貨体制といえる
一種の通貨ブロック経済化なのか？？？

日本円はどうなるのか？？？

参考文献

後藤健二『欧州通貨統合は何を克服したのか』 大蔵財務協会（平成 13 年）

田中素香『ユーロ その衝撃とゆくえ』岩波新書（2002 年）

追加資料 デイヴィッド・マーシュ（田村勝省訳）『ユーロ 統一通貨誕生への道のり、その歴史的・政治的背景と展望』一灯舎（2011 年）